

ASPUnivNet

ユネスコスクール支援
大学間ネットワーク

Interuniversity Network Supporting
The UNESCO Associated Schools Network



ASPUnivNet

ESDをめぐる現状とASPUnivNetへの期待

文部科学省国際統括官
日本ユネスコ国内委員会事務総長
大山 真未



ユネスコスクールは、ユネスコの理念や目的を学校のあらゆる面に位置付け、「児童生徒の心の中に平和の砦を築く」ことを目指す、世界的な学校ネットワークです。文部科学省では、ユネスコスクールを「持続可能な開発のための教育 (ESD)」の推進拠点と位置付け、活動の質の向上に努めてまいりました。

昨年開催されたユネスコ総会、および国連総会の場において、ESD 推進の新たな枠組みである「ESD for 2030」が採択されました。「ESD for 2030」では、「ESD 活動は全ての SDGs 達成に貢献する」とされており、ESD が SDGs 達成のための重要な鍵であることが明示されています。ESD の提唱国である我が国は、今後も引き続き、「ESD for 2030」そして SDGs 達成に向けた世界の動きをリードしていくことが求められています。

また、令和2年度から小学校において全面実施される新学習指導要領では、「持続可能な社会の創り手」の育成が掲げられています。

ASPUnivNet には、これら国内外の動きを踏まえ、今後ともユネスコスクールの大切なパートナーとして、ESD、SDGs に関する優れた教育資源を提供できる高等教育機関としての能力を活かして、各学校の現状とニーズを踏まえた支援を継続・充実していただくことを期待しております。さらには、ASPUnivNet の活動を通じ、ユネスコが掲げるユネスコスクール (ASPnet) のミッションを踏まえた各学校の活動の質の向上、質の高い教員の養成、好事例の国内外への発信などが進んでいくことを期待しております。

また、教育委員会や学校をはじめ教育関係者の皆様におかれましては、本冊子で ASPUnivNet の活動を御理解いただき、積極的に連携を図っていただくと幸いです。

Contents

ASPUnivNet に期待すること	
ASPUnivNet とは	2
ASPUnivNet 創設の経緯	2
ユネスコスクール（ASPnet）とは	2
ASPUnivNet の機能	3
加盟大学の主な支援地域	3
ASPUnivNet2019年度ワークショップ開催報告	4
ASPnet 支援を通じたユネスコ理念の実現に向けて	6
加盟大学の紹介	7
北海道教育大学釧路校	8
東北大学大学院環境科学研究科	9
宮城教育大学	10
玉川大学教育学部	11
創価大学教育学部・教職大学院	12
成蹊大学	13
東海大学教養学部	14
金沢大学	15
信州大学教育学部	16
静岡大学教育学部	17
岐阜大学	18
愛知教育大学	19
中部大学	20
三重大学	21
京都外国語大学	22
大阪府立大学	23
奈良教育大学	24
岡山大学	25
広島大学大学院教育学研究科	26
福山市立大学	27
広島市立大学国際学部	28
鳴門教育大学	29
福岡教育大学	30
協力員の紹介	31
ユネスコスクール支援大学間ネットワーク規約	32

ユネスコスクール支援大学間ネットワーク (略称 ASPUnivNet) とは

ASPUnivNet (ユニブネット) は、ユネスコスクールのパートナーとして、ユネスコスクールの活動を支援する大学のネットワークです。

ASPUnivNet 創設の経緯

ユネスコスクールの活動は、1953年にASPnet (Associated Schools Project Network) として、ユネスコ憲章に示された理念を学校現場で実践するために発足して以来、長い歴史があります。世界の民間のユネスコ活動の発祥が仙台であったこともあり、2007年に仙台の宮城教育大学でおこなわれた「国際理解教育シンポジウム」を契機として、気仙沼市を中心に地域でのユネスコスクールへの加盟申請が一気に増えました。学校教育への大学の協力に加え、申請を大学が支援したことが推進力となりました。2008年11月には、宮城教育大学で『ユネスコスクールの集い』が開催され、ユネスコスクールの支援を考える大学の関係者が集まり、大学間ネットワークの設立が提唱されました。同年12月2日～5日『ESD国際フォーラム2008』(主催：文部科学省、日本ユネスコ国内委員会、国連教育科学文化機関(ユネスコ)、共催：国連大学、公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター、宮城教育大学)が、東京の国連大学で開催され、そこで正式にユネスコスクール支援大学間ネットワーク(ASPUnivNet)が発足しました。このときの参加は8大学でしたが、2020年1月現在23大学となりました。

ユネスコスクール(ASPnet)とは

ユネスコスクールは、ユネスコ憲章に示されたユネスコの理念を実現するため、平和や国際的な連携を実践する学校です。2020年1月現在、世界181の国と地域で約11,000校のユネスコスクールがあります。文部科学省および日本ユネスコ国内委員会では、ユネスコスクールをESDの推進拠点として位置付けています。

持続可能な開発のための教育(ESD: Education for Sustainable Development)とは

ESDは持続可能な社会の担い手を育む教育です。ESDの実施には、特に次の2つの観点が必要です。

- 人格の形成や、自立心、判断力、責任感などの人間性を育むこと
- 他人との関係性、社会との関係性、自然環境との関係性を認識し、「かかわり」、「つながり」を尊重できる個人を育むこと

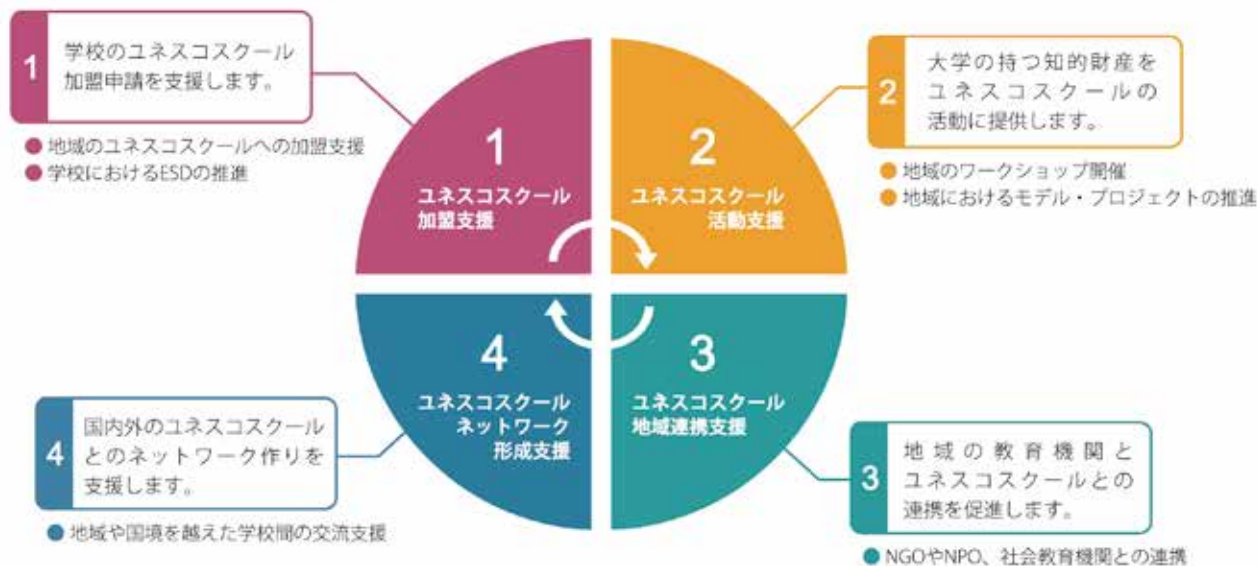
新学習指導要領とESD

2017年3月に公示された幼稚園教育要領、小・中学校学習指導要領及び2018年3月に公示された高等学校学習指導要領においては、全体の内容に係る前文及び総則において、「持続可能な社会の創り手」の育成が掲げられています。また、社会科・理科などを中心に各教科においても関連する内容が盛り込まれています。新学習指導要領は、小学校では2020年度、中学校では2021年度から全面实施、高等学校では2022年度から順次実施されます。

教育振興基本計画とESD

2018年6月に閣議決定された第三期教育振興基本計画では、初等中等教育段階において、「我が国がESDの推進拠点として位置付けているユネスコスクールの活動の充実を図り、好事例を全国的に広く発信・共有する。また、地域の多様な関係者の協働により、ESDの実践・普及や学校間の交流を促進するとともに、ESDの深化を図る」こととしています。高等教育段階では、「学際的な取組などを通じてSDGs(持続可能な開発目標)の達成に資するようなESDの深化を図る。これらの取組を通して、地球規模課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組む態度を身に付けた持続可能な社会づくりの担い手を育む」ことを求めています。

ASPUivNet の機能



加盟大学の主な支援地域 (2020年1月現在)

※ ここで示した支援地域外の学校の支援も可能です。

- 北海道教育大学 … 北海道
- 東北大学 …… 青森・岩手・宮城・秋田・山形・福島
- 宮城教育大学 …… 青森・岩手・宮城・秋田・山形・福島・群馬
- 玉川大学 …… 千葉・東京
- 創価大学 …… 群馬・埼玉・東京
- 成蹊大学 …… 茨城・栃木・東京
- 東海大学 …… 神奈川
- 金沢大学 …… 富山・石川・福井
- 信州大学 …… 長野
- 静岡大学 …… 静岡・山梨
- 岐阜大学 …… 岐阜
- 愛知教育大学 …… 愛知
- 中部大学 …… 愛知
- 三重大学 …… 三重
- 京都外国語大学 …… 京都
- 大阪府立大学 …… 大阪・兵庫
- 奈良教育大学 …… 奈良・和歌山・滋賀
- 岡山大学 …… 岡山・鳥取・島根
- 広島大学 …… 広島・山口
- 福山市立大学 …… 広島
- 広島市立大学 …… 広島
- 鳴門教育大学 …… 徳島・香川・愛媛・高知
- 福岡教育大学 …… 福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島・沖縄



ASPUnivNet2019年度ワークショップin福山開催報告

「SDGsの達成に向けて地域と世界をつなぐESD」

日時 2019年12月1日(日) 午後1時～4時

場所 福山市立大学研究棟小講義室D

ASPUnivNetは、ユネスコスクール支援大学として、長期にわたって学校現場のESDとSDGsの推進をリードしてきました。2008年11月に設立されたASPUnivNetの目標・成果・課題を共有し、ASPUnivNetの戦略的・発展的展開に向けたワークショップを開催しました。3部構成のワークショップの内容を報告します。



第1部



第1部では、朴 恵淑運営委員長（三重大学）から、昨年のASPUnivNet 10周年シンポジウムでの成果を活かし、課題解決のため、4つのテーマからなる分科会（ASPUnivNet間の共同プロジェクト（研究）・評価と活動・SDGs-ESD連携・ユネスコスクールの存在意義）について、実りの多いワークショップに期待したいとの挨拶と趣旨説明がありました。市瀬 智紀副運営委員長（宮城教育大学）の司会によって、ACCUの藤本 早恵子氏による「UNESCO ASPnet Guide for Members」の概要についての報告がありました。続いて、大杉 住子氏（文部科学省国際統括官付国際戦略企画官）による「これからの時代に期待されるユネスコスクールの役割」の講演がおこなわれました。日本のユネスコスクール活動は、「ESD for 2030」のように、ESD-SDGsの連携によって多様な地域性を活かした活動、特に、気候変動や防災学習などへの期待が高く、プラットフォームづくりなど、ASPUnivNetの支援がますます期待できるとの講演がおこなわれました。

第2部

第2部では、4つの分科会がおこなわれました。

第1分科会：ASPUnivNet間の共同プロジェクト

ファシリテーター 境 智洋（北海道教育大学釧路校）

1. ユネスコスクールの理念とその歴史：ユネスコスクールの理念を再確認し、その歴史的な背景を明らかにすることが必要である。
2. 国際動向とその現状と展望：現在の国際動向がどのようになっているか、なっていくのかについて基礎研究をおこなうことが必要である。
3. 今後に向けた提案や計画：ASPUnivNet 運営委員会より第1回目の連絡会議までに研究グループの立ち上げを提案し、研究体制をつくり、最終的には書籍などの発行まで進む。



第2分科会：ASPUnivNetの発展に資する評価とその活動

ファシリテーター 市瀬 智紀（宮城教育大学）

1. ASPUnivNetの評価の具体的な改善方法：生徒が先生を評価するように、実際に支援を受ける側のユネスコスクールがASPUnivNetを評価する体制を作るべきである。
2. ASPUnivNetの4つの機能：①加盟申請支援、②活動支援、③地域連携・関係団体との連携支援、④国際連携支援を再度確認する。4つの機能を評価軸として、ASPUnivNetの各大学の年間の活動の評価を受ける。評価は次年度に活かし、PDCAで毎年改善を図っていくべきである。
3. 今後に向けた提案や計画：4つの機能を評価委員に提示して、各大学がそれを実現しているかどうかの評価を受ける。再来年度からは、支援を受ける側のユネスコスクールの教員に評価委員になることを提案する。



第3分科会：SDGs-ESDの連携

ファシリテーター 朴 恵淑（三重大学）

SDGs-ESD 連携の国内外の背景：SDGsは、「誰一人取り残さないー No one will be left behind」を理念として、国際社会が持続可能な社会を実現するための17の目標と169のターゲットからなる重要な指針である。行政・企業・学校・市民などすべてのステークホルダーが連携するグローバル・パートナーシップが求められていることから、SDGs-ESDとの連携による発展的展開が期待できる。

1. ユネスコスクールにおけるSDGs-ESDの連携による人材育成：

- ① 2030年からのBackcasting：新しい発想、分野横断的、Critical Thinkingのできる人材育成のため、これまでのForecasting的アプローチでなく、2030年からのBackcasting的アプローチ、「ESD for 2030」のコンテンツ強化が必要不可欠である。
- ② 分野横断的教育：SDGs-ESDの連携によって、教科横断的教育が可能となる。
- ③ ステークホルダーとのパートナーシップの強化：SDGs-ESDの連携によって、産官学民とのパートナーシッププロジェクトによる活動基金などが獲得しやすくなる。企業は、Society 5.0 for SDGsの実行によって、企業—学校間のWin-Win的取組が可能となる。



2. 今後に向けた提案や計画：2020年度は、「SDGs-ESDの連携のGood Practiceの提案をおこない、ASPUnivNetの報告書およびACCUのWEBサイト(和文・英文)にアップし、国内外へ周知する。2021年度は、「ASPUnivNetのSDGs-ESD連携」の書籍発行を目指す。

第4分科会：ユネスコスクールの存在意義/ASPUnivNetとしての効果的な支援

ファシリテーター 田宮 緑（静岡大学）

1. ユネスコスクールの課題：ユネスコスクールの継続性として、申請時にホールスクールの取組となっているかという点、人事異動時の引き継ぎの問題が挙げられる。ユネスコスクール申請時に支援大学がホールスクールの取組になっているかを見極め、助言すること、また、支援大学が校内研修などをおこない、転勤先でもESD推進の力量形成をユネスコスクールでおこなえるモデルの確立が急務である。
2. ユネスコスクールが当面注力すべき3つの活動分野：申請時だけでなく、加盟後も周知し、自己評価を促す必要がある。ASPUnivNetとして、3つの活動分野の周知や脱退する学校への支援の方向性を示す必要がある。
3. 今後に向けた提案や計画：支援大学も人的資源や学内体制など課題を抱えており、支援大学の増加や大学間の連携を強化する。他の組織との連携を図る方法として、ACCUが運営しているWEBサイト（ユネスコスクール）の有効活用（ユネスコスクール年次報告書や海外の学校との交流のマッチング）が望まれる。



第3部

各分科会の報告がおこなわれ、内容の共有および骨子の合意が図られました。また、次のアクションに向けた協議がおこなわれ、2020年度のASPUnivNetの戦略的・発展的展開が期待できるワークショップの終了となりました。今後、本ワークショップの成果を活かし、課題の解決に向けたASPUnivNetの加盟大学間の緊密な連携による企画が期待されます。

ユネスコスクール (ASPnet) 支援を通じたユネスコ理念の実現に向けて

ユネスコスクール（現在の正式名称：UNESCO Associated Schools Network、通称：ASPnet）は、ユネスコ憲章に示されたユネスコの理念を実現するために、平和や国際的な連携を实践する学校のネットワーク組織として1953年に開始されました。2020年1月現在、世界181の国・地域で約11,000校がユネスコスクールに加盟しています。

日本では、文部科学省および日本ユネスコ国内委員会がユネスコスクールをESDの推進拠点と位置づけ、加盟校増加に取り組んだ結果、2019年11月現在で1,120校の幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校・大学等がユネスコスクールに加盟しています。

ユネスコスクール支援大学間ネットワーク (ASPUnivNet) は、ユネスコスクールのパートナーとして、加盟校を支援するため2008年12月に設立されました。ASPUnivNet加盟大学は、相互に情報交換や研修活動をおこないつつ、ユネスコスクールへの加盟申請支援、国内外のユネスコスクールネットワークの形成支援、大学の持つ知的財産のユネスコスクールへの提供、地域の教育機関や民間団体など関連するステークホルダーとの連携といった役割を果たしています。

「国連ESDの10年」の最終年（2014年）11月には、「ESDに関するユネスコ世界会議」や「ユネスコスクール世界大会」（「ユネスコスクール全国大会」、「Student（高校生）フォーラム」および「教員フォーラム」の3つのフォーラムで構成）が愛知県・名古屋市と岡山市で開催されました。世界会議で発表された「あいち・なごや宣言」では、ESDアジェンダをさらに進めるために、すべてのステークホルダーが「ESDに関するグローバル・アクション・プログラム（GAP）」を実施することを求めています。日本ユネスコ国内委員会では、世界会議後の2015年3月にESD特別分科会を設置し、「持続可能な開発のための教育（ESD）のさらなる推進に向けて」と題する報告書をまとめ、ESD推進方針を「ESDを広めるための取組」、「ESDを深める（実践力を高める）ための取組」、「国際的にESDを推進するための取組」の3つに分類して、さまざまな方策を提案しています。

また最近では、世界的なユネスコスクール (ASPnet) の拡大に対応して、そのミッションや目的を再確認し、質の確保と向上をめざす取組が重視されています。2017年10月のユネスコ総会の場で、ASPnetのミッションとして、「心のなかに平和の砦を築く」というユネスコの理念を、「学習の4本柱」（ユネスコ21世紀教育国際委員会）を念頭に実現することが示されました。また、ASPnetの目的としては、1) 平和と人権、自由のための国際的な理解と協力といったユネスコ憲章および国際連合憲章の価値と原則の促進、2) グローバルなネットワークとして、国際的・地域的な協同により、刷新的で創造的な教育にチャレンジする実験的な機能を果たすこと、3) 国連の優先分野である持続可能な開発のための目標 (SDGs) の達成、とりわけ ASPnet は、地球市民教育 (GCED) と持続可能な開発のための教育 (ESD) に関わる Goal 4 - Education 2030 をめざすこと、以上の3点が提案されています。

ASPUnivNet は、ESDをはじめとするユネスコスクール (ASPnet) のミッションと目的を踏まえ、日本の加盟校における活動の質的向上を継続的に支援し、日本の優れた実践事例を世界に発信できるように展開していきます。

ASPUnivNet 運営委員会

Introduction

加盟大学の紹介

- 北海道教育大学釧路校…………… 8
- 東北大学大学院環境科学研究科… 9
- 宮城教育大学…………… 10
- 玉川大学教育学部…………… 11
- 創価大学教育学部・教職大学院… 12
- 成蹊大学…………… 13
- 東海大学教養学部…………… 14
- 金沢大学…………… 15
- 信州大学教育学部…………… 16
- 静岡大学教育学部…………… 17
- 岐阜大学…………… 18
- 愛知教育大学…………… 19
- 中部大学…………… 20
- 三重大学…………… 21
- 京都外国語大学…………… 22
- 大阪府立大学…………… 23
- 奈良教育大学…………… 24
- 岡山大学…………… 25
- 広島大学大学院教育学研究科…… 26
- 福山市立大学…………… 27
- 広島市立大学国際学部…………… 28
- 鳴門教育大学…………… 29
- 福岡教育大学…………… 30

協力員の紹介…………… 31

北海道教育大学釧路校

住所 〒085-8580 北海道釧路市城山1-15-55

URL <http://esdc.kus.hokkyodai.ac.jp>

担当 釧路校ESD推進センター長 境智洋

TEL & FAX : 0154-44-3353

Sakai.chihiro@k.hokkyodai.ac.jp

ユネスコスクール支援内容

ユネスコスクールのネットワーク

01 ESD ユネスコスクール全道研修会の開催

ESD ユネスコスクール全道研修会は、毎年、北海道教育大学札幌駅前サテライトにおいて実施されています。今年度は12月7日（土）に、講演「SDGsの視点から新聞記事を読み解く」（北海道ユネスコ連絡協議会会長・大津和子）および実践・活動発表（道内4校）をおこないました。全道より50名程の関係者が集まり活発な意見交換がおこなわれました。

02 釧路市での道東ユネスコスクール研修会の開催

2020年2月29日に道東のユネスコスクールやへき地小規模校で特色ある教育実践をおこなっている事例をもとに、SDGsと学校・地域づくりに関する研修会を開催します。講演に阿部治・立教大学教授を迎え、道東の幼稚園、小中学校から教育実践報告をしていただきます。

ESD 活動紹介

ユネスコスクールと各種機関との連携

01 ESD フランナー資格授与

ESD 推進センターでは、毎年所定の科目を修了した学生や公開講座を受講した市民の方に「ESD フランナー」の資格を発行しています。毎年、北海道教育大学釧路校の卒業証書授与式当日、資格授与式を釧路校キャンパス長室でおこなっています。現在65名程が資格を授与されていますが、それぞれの地域・学校でユネスコスクールの普及啓発や登録支援などESD・SDGs推進の中核として活躍しています。

03 ESD 推進センター研究紀要「ESD・環境教育研究」の刊行

ESD 推進センターでは、毎年センター研究紀要として「ESD・環境教育研究」を刊行しています（木戸口正宏編集委員長）。第22巻が2020年に刊行されます。論文、シンポジウム報告、資料などが掲載され、関係者に配布しています。

02 北海道教育大学釧路校ESD推進センターの取組

天文・気象・環境・防災などの実験や展示、講演を実施しています。特に、北海道釧路総合振興局との協定に基づいて、防災に関するマスター講習会を年2回開催しています。2019年度は、9月に避難所運営のシミュレーションを体験するDoハグマスター講習会を開催し、行政機関職員、学校教職員、大学生、高校生、一般市民の30名が受講しました。2020年1月には地域防災を学ぶDIGマスター講習会を開催します。北海道東地域における災害へ対応するため、学校関係者、行政担当者のみならず、青少年の参画・参加を念頭にいたSDGs講習会になっています。

東北大学大学院環境科学研究科

住所 〒 980-0845 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉 468-1

URL www.kankyo.tohoku.ac.jp

担当 水資源システム学分野
准教授 佐野 大輔
daisuke.sano.e1@tohoku.ac.jp

ユネスコスクール支援内容

SDG6に関わる教育活動の支援

SDG6「すべての人々に水と衛生へのアクセスと持続可能な管理を」に関する教育活動の支援を展開しました。具体的には、日本水環境学会東北支部研究発表会を企画・運営し、東北地方の高校がおこなった水環境に関わる学外活動の内容・成果を報告する場として提供することで、ユネスコスクールに所属する生徒が研究発表をおこなう機会、および水環境分野の研究者を含む専門家と交流する機会を創出しました。特に「地域・日本・世界に貢献できるグローバルリーダーの育成」を目指す教育をおこなっている宮城県仙台二華高等学校からは多数の生徒が参加しており、本研究発表会は高校生が将来的に当該分野へ本格的に貢献していくための経験を積む場として活用されています。

教育活動の支援に資するべく研究面においても、SDG6に関わる世界の動向を分析し、佐野研究室のホームページでその内容を公開するなどの活動をおこなっています。東北大学大学院環境科学研究科・水資源システム学分野は国際水協会・健康関連水中微生物研究委員会の事務局を務めているほか、佐野准教授は2年に1度シンガポールでおこなわれている Singapore International Water Week のプログラム編成委員を務めており、世界中のさまざまな場所でどのような水処理関連技術・システムが求められているのか、将来的に我々が直面する課題とは何なのか、などに関する情報が集められており、当該分野で国際的に活躍する人材の育成を目指しているユネスコスクールに活用していただいています。

ESD 活動紹介

文理融合型の国際的な環境学習と人材育成

2003年に設立された東北大学大学院環境科学研究科は、「持続可能な発展をささえる文化と循環社会の基盤となる社会構造を確立し、21世紀の地球的課題に取り組む高度な知識と能力を有する人材の育成」を理念に教育・研究活動をおこなっています。本研究科では、小中高校生、学部学生、大学院学生、社会人学生、そして、アジアを中心とする海外の学生に対して広く環境教育をおこなっています。

仙台市と連携することで、研究科の建物内に市民向け環境学習を推進する「たまきさんサロン」を開設し、小中学校の生徒や市民を対象としたセミナーを定期的に開催しています。同サロンでは、環境をめぐる多様な分野の文献資料を揃えており、研究科の理念とも重なる文理融合型かつ国際的な環境学習をおこなうことが可能な場所として、また、市民と研究者をつなぐ場所として機能しています。

宮城教育大学

住所 〒 980-0845
宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉 149 番地

URL <http://renkei.miyakyo-u.ac.jp/kenkyo/esd/aspunivnet/>

担当 教員キャリア研究機構 教授 市瀬 智紀
TEL : 022-214-3382/3381
ichinose@staff.miyakyo-u.ac.jp

ユネスコスクール支援内容

ユネスコスクールの教室、学校、教員にリソースと機会の提供をおこないます。

01 ユネスコスクール加盟支援と加盟後の学校支援

AASPUivNet の創設校・メンバー校として、ユネスコスクールの新規加盟希望校と既存の加盟校（東北地方で 112 校）に向けた活動支援をおこなっています。昨年度は、青森県、山形県、宮城県、新潟県、栃木県、群馬県、埼玉県から計 25 学校園の加盟申請があり、本年度は 5 校の新規加盟希望があったためそれらの学校を実際に訪問して支援しています。また、11 月 5 日に開催した日本／ユネスコパートナーシップ事業による「第 1 回ユネスコスクール北海道・東北ブロック大会」には、北海道・東北地方内外からユネスコスクール加盟校・申請校の児童生徒が研究発表のために集い、教員を含む 200 名が参加しました。



02 ユネスコスクール加盟支援と学校支援

ユネスコ活動費補助金による「地球市民による地域資源を活用した SDGs・ESD カリキュラム開発」事業、科学研究費補助金基盤研究 (B)「東北の人材育成ネットワークを活用した ESD・SDGs 地域学びあいモデルの創造」による調査・研究を、昨年度から継続して実施しました。それらにより以下の事業に対する支援や協働をおこないました。(以下、主なもののみ)

1. 気仙沼地区：ESD/ユネスコスクール研修会（6 月 / 1 月）、ESD 円卓会議（11 月）
2. 岩手・平泉地域：平泉町公開研究会（9 月）
3. 福島・只見地区：只見町公開研究会（11 月）
4. 福島・安達地区：安達高校 ESD 公開研究発表会（8 月）
5. 宮城・仙台地区：多賀城高校公開研究会 (10 月)、ユネスコスクール東北大会（11 月）、ESD 活動支援センター成果報告会（2 月）など

ESD 活動紹介

東北の各地域や世界と連携しながら ESD の学びの機会を創出しています。

01 仙台広域圏 ESD・RCE および ESD/ユネスコスクール・東北コンソーシアムの活動の運営主体

2005 年に仙台広域圏 RCE として認定されました。その事務局として、また、2014 年からは ESD/ユネスコスクール・東北コンソーシアムの活動の運営主体として、環境関係団体や NPO、ユネスコ協会、教育委員会などと連携しながら、東北地方の各地域における ESD の展開を促進しています。本年度からユネスコ活動費補助金による「地域市民による地域資源を活用した SDGs・ESD カリキュラム開発」事業を推進し、学び合いセミナーを数回開催するとともに、コンソーシアム構成団体が主催する東北各地の事業に対して協力をおこなっています。

02 学部教員養成における ESD の推進—持続可能な開発のための教育関連カリキュラム「現代的課題科目」

現代的な課題を解決する目的で設定している学部教育（副専攻）科目「現代的課題科目群」の環境教育、多文化教育などの科目群において、ESD について学習する時間を設定しています。また、3.11 東日本大震災の被災地として、防災教育を強力に推進しています。免許状更新講習においては、現職教員に向けて、ESD 入門科目を、仙台市と気仙沼市において開催しています。そして、上記のような学校支援、教員研修の場への学部学生、大学院学生の参加を促しています。



03 国際的な協働と研究活動

国際的には、JICA、ユネスコバンコク・ジャカルタ事務所、中国の ESD 推進部門である中国持続発展教育委員会、岡山大学（ユネスコチェア）、ProSPER.Net などの協働



プロジェクトに参加し活動をおこなっています。特に本年度は 10 月 18 日に ProSPER.Net の総会を主催し、オーストラリア、中国、インドネシア、キルギスタン、フィリピン、スリランカ、タイ、国連大学、ユネスコ、環境省と日本の大学教員・学部長など総計 49 名が参加して、防災教育を含めた持続可能な社会の創造のための取組について討論しました。上述のような ESD における大学内の推進主体を、教員キャリア研究機構内に設置しています。

玉川大学教育学部

住所 〒194-8610 東京都町田市玉川学園 6-1-1

URL <http://www.tamagawa.jp>

担当 教育学部教授 小林 亮
TEL : 042-739-8420 (教育学部事務室)
makoto@edu.tamagawa.ac.jp

ユネスコスクール支援内容

01 ユネスコスクール (ASPnet) および ASPUnivNet への加盟の経緯

玉川大学教育学部は、2008年10月24日(国連デー)に、教員養成大学としてユネスコスクール(ASPnet)に加盟しました。また同年、ASPUnivNetに加盟しました。玉川大学の創設者である小原國芳の提唱した全人教育の伝統を活かし、近隣自治体の小中高校や教育委員会、ユネスコ・アジア文化センター(ACCU)、日本ユネスコ協会連盟、ESD活動支援センターとも連携しながら、SDGsの目標達成に向けたESD(持続可能な開発のための教育)およびGCED(地球市民教育)の視点を軸にしたユネスコの価値教育を推進するため、ユネスコスクール多摩地域ネットワークの構築と拡充を目指しています。

02 日本/ユネスコパートナーシップ事業による「ユネスコスクール関東ブロック大会」

ユネスコスクール支援大学間ネットワーク(ASPUnivNet)の大学間連携と協同の成果の一端として玉川大学は首都圏に位置するほかのASPUnivNet加盟大学(東海大学、創価大学、成蹊大学)、ユネスコ・アジア文化センター(ACCU)および神奈川県ユネスコスクール連絡協議会と連携し、2019年10月5日(土)に「ユネスコスクール関東ブロック大会」を開催しました。「SDGs達成に向けたユネスコスクールと地域の連携」を基調テーマにしたASPnet関東ブロック大会には100名を超える参加者が集い、地域社会におけるユネスコスクールのあり方について議論を深めました。基調講演には、韓国ソウルにあるユネスコ・アジア太平洋国際理解教育センター(APCEIU)のイム・ヒョンムク(林賢黙)所長が登壇され、日韓のユネスコスクールの国際連携の進展に向けてよいきっかけとなりました。4大学およびACCUはそれぞれの得意分野を活かした分科会を開催しましたが、玉川大学は「地球市民教育(GCED)とユネスコスクール海外連携ーアジア太平洋地域のユネスコスクールとの連携を視野に」をテーマにした分科会を実施し、新しい市民像の育成に向けたユネスコスクールの役割を検討しました。



ESD活動紹介

01 「ESD実践活動プログラム」と「SDGs目標達成に向けた教師教育実践プログラム」

玉川大学教育学部は卒業生の大半が学校教員になることから、学校現場でESD/SDGsを効果的に教えることのできる教師力の育成を目標に掲げ、学部等改革推進制度として2017年度に「ESD実践学習プログラム」を実施しました。年間を通じ、ESD研修セミナー、国連広報センター訪問、ESD活動支援センター訪問、JICA地球ひろばでの訪問学習、近隣の小学校でのボランティア活動、伊勢志摩地域への自然文化体験スタディツアーなどをおこないました。このスタディツアーに基づき、参加学生は小学校現場で使うことのできるESDワークシート教材を作成し、持続可能な社会の担い手を育成する教師のESD指導スキルの向上に努めました。この成果を活かし、2020年度に玉川大学教育学部は「SDGs目標達成に向けた地球市民性の育成を目指す教師教育実践プログラム」を教員養成プログラムとして実施する予定です。また今後は教育学部のカリキュラムの中にESD/SDGs教育指導法を正規の科目として単位化する形で組み入れていく計画を進めています。



02 玉川大学ユネスコクラブ活動

大学公認の文化会である玉川大学ユネスコクラブ(2003年設立)はユネスコスクール加盟大学の課外活動団体として、「持続可能な社会づくりのために大学生ができること」をテーマにした実践活動を展開しています。2011年7月には日本ユネスコ協会連盟に加盟しました。奈良教育大学、慶應義塾大学、国際基督教大学、広島大学、福山市立大学、京都外国語大学など他大学のユネスコクラブとの交流を積極的に進め、ユネスコクラブの全国的ネットワーク構築を目指して4回の「ユネスコクラブ全国サミット」(2013年、2015年、2016年、2017年)を玉川大学にて開催しました。また毎年実施している国内・海外のスタディツアーを通じ、国内外のユネスコスクールとの交流と協同活動を展開しています。2019年10月には、玉川大学ユネスコクラブは町田市立南大谷小学校にて、文化の多様性および世界の水問題をテーマにした総合学習での出張授業をおこない、異学校種間交流によるユネスコ活動の可能性を追求しています。

創価大学教育学部・教職大学院

住所 〒192-8577 東京都八王子市丹木町1-236

URL <https://www.soka.ac.jp/education/unesco/>

担当 教育学部長 関田 一彦
TEL : 042-691-9378
susp@soka.ac.jp

ユネスコスクール支援内容

01 支援対象地域にある学校のユネスコスクールへの加盟申請支援

創価大学教育学部・教職大学院は2018年7月にASPUUnivNetに加盟し、ユネスコスクールへの加盟申請支援をおこなっています。2019年度にはユネスコスクール加盟申請校である東京都八王子市・板橋区・北区および埼玉県内の小学校4校、中学校1校、高等学校2校、中学・高等学校1校への加盟申請支援をおこないました。

02 主な支援活動（2019年度）

1. SDGs 出張授業・ユネスコスクール申請支援研修

本学学生・教員が八王子市内のユネスコスクールチャレンジ中学校にて、同校の全校生徒を対象とした「SDGs 出張授業」をおこないました（6月12日）。SDGsを自分事として捉えながら、問題解決能力やチャレンジ精神を涵養することの重要性を強調しました。また、この出張授業を受けた中学校の生徒会代表6名が本学に来学し、SDGsについて学び、考える「SDGsツアー」を実施しました（6月29日）。また、ユネスコスクール加盟を検討中の市内の小中学校2校に教員を派遣し、ユネスコスクールに関する校内研修をおこないました。



2. 「異文化理解を通じた環境教育」出張授業（9月9日）

本学に学ぶ留学生を八王子市内のユネスコスクールチャレンジ小学校に派遣し、児童との交流会を開催しました。留学生らは出身国の文化などを紹介したあと、自国のごみ問題やその解決に向けた取組について話しました。



3. ユネスコスクール関東ブロック大会（10月5日 於：玉川大学）

ユネスコスクール関東ブロック大会では平和・人権に関する分科会を担当し、「演劇で『平和のとりで』を築く一演劇を用いたいじめ防止の取組から、ユネスコ憲章の理念に迫る」と題するセミナーを行いました。影絵劇を用いた小学校高学年におけるいじめ防止の取組事例から、ユネスコ憲章前文にうたわれている平和の精神を、いかにして日々の教育実践において具現していくのかを参加者とともに考えました。

ESD 活動紹介

01 ESD 関連の勉強会の実施（2019年度）

1. ESD 関連の勉強会を開催しました（6月26日）

日本ESD学会・手島利夫先生を講師に迎え、「ESD 勉強会」を開催しました。本学の教職員・学生のほか、八王子市内の小中学校の校長や教諭ら約50名が参加しました。また、2019年度の講演会などのイベントについては、ASPUUnivNetのHPにおける創価大学のページを参照して下さい。

2. 教職大学院・教育学部合同フォーラム「SDGsを支える教育を考える」（9月21日）

冒頭、文科省国際統括官付国際戦略企画官の大杉住子氏が「新しい学習指導要領とESD：持続可能な社会の創り手を育てる教育を考える」の講演をおこない、続いて、宮城教育大学の市瀬智紀教授は、「ユネスコスクールとしての大学の取組：宮城教育大学の実践から」と題して講演をおこないました。



02 本学教育学部・教職大学院がユネスコスクールに加盟申請

創価大学教育学部・教職大学院は、ASPUUnivNet加盟校としての活動とともに、自らもユネスコスクールの一員としてESDを進めるため、ユネスコスクールへの加盟申請をおこないました。本学には1971年の創立以来、平和・人権・環境・開発の4つの分野にわたって世界市民育成をおこなってきた伝統があります。現在は2021年の創立50周年を目指し、SDGs推進に向けて全学で力を注いでいます。今後、1年間のチャレンジ期間を経て、2020年7月の正式登録を目指します。

03 今後のESD関連活動の展望

創価大学では教職員だけでなく、多くの学生団体がSDGs達成に向けた活動に従事しています。今後は、こうした学内活動・リソースの掌握のみならず、地域の社会教育機関との連携を図り、対象地域下にある小中高等学校に積極的に紹介することで、ユネスコスクール活動の支援およびネットワーク作りに役立てていきます。

成蹊大学

住所 〒 180-8633 東京都武蔵野市吉祥寺北町 3-3-1

URL <https://www.seikei.ac.jp/university/>

担当 成蹊学園／成蹊大学サステナビリティ教育研究センター
所長 池上 敦子
TEL : 0422-37-3480
ercs@jc.seikei.ac.jp

ユネスコスクール支援内容

成蹊教育の特色は、100年に及ぶ栽培活動の歴史、90余年の気象観測の歴史に代表されるような、実験や観察、校外学習を通じた「本物に触れる体験」によって、問題意識をあたため科学的思考に高めていくことにあります。2018年4月に開設したサステナビリティ教育研究センターを主体に、小学校、中学校、高等学校、大学を擁する成蹊学園が蓄積してきた教育資源を、ユネスコスクールの児童、生徒が参加できるフォーラム、シンポジウム、講演会、ワークショップ、出前授業などの形で提供していきたいと考えています。さらに、地域、教育委員会、企業、NPOと連携しながらユネスコスクール支援を進めていきます。

ESD 活動紹介

01 気象観測と地球環境教育

気象観測所を有し、その前身である生徒による観測が1926年に始まって以来、気象庁・気象観測法に準拠し、毎日1回朝9時に各種観測がおこなわれています。今年度は、地球温暖化に関する小学生向けイベントや、極地の自然を通して気候変動を学ぶ模擬授業（ユネスコスクール関東ブロック大会）も実施しました。学内では、建物のエネルギー使用状況や室内空調環境をモニタリングするシステムから得られたデータをもとに消費エネルギー削減に取り組むプロジェクトも始動しています。



02 フォーラム、シンポジウム、ワークショップ

毎年4月に、「ESD 成蹊フォーラム 武蔵野の自然と成蹊の学び」を開催しています。活動報告、特別講演、それと連動したウォーキングツアーなどを実施しています。毎年2月には、宇宙や地球を知りたいことを目的とした「オーロラと宇宙」シンポジウムを開催しています。また、地域の小学校、中学校を対象にワークショップも開催しています。



03 けやき循環プロジェクト

構内の榎並木の落葉を活用して循環する仕組み作りを目的として始めました。落葉集め、落葉を使った焼き芋大会・堆肥づくり、堆肥を使った花の植替えを実施しており、枝の活用も検討中です。成蹊小学校の土づくりから収穫までを実践する「栽培活動」とも連動しています。近隣地域も含めた環境活動の広がりや循環を目指しています。



04 ボランティア活動

学生ボランティア本部 Uni. は、教育・環境・国際・地域・福祉の5チームに分かれて活動し、環境チームは近隣の公園での清掃・保全活動、国際チームは経済格差の仕組みを理解する貿易ゲームの体験イベントなどをおこなっています。東北プロジェクトとして、福島の子どもたちに向けたアートワークショップなどにも取り組んでいます。

東海大学教養学部

住所 〒 259-1292 神奈川県平塚市北金目 4-1-1
URL <http://www.shc.u-tokai.ac.jp/>

担当 小貫 大輔 / 岩本 泰 / 田辺 圭一 / 小山 晶子 / ニノ宮 リム さち
TEL : 0463-58-1211(代)
unesco@ml.u-tokai.ac.jp

ユネスコスクール支援内容

ユネスコスクールの教室、学校、教員にリソースと機会の提供をおこないます。

01 ユネスコスクール加盟支援

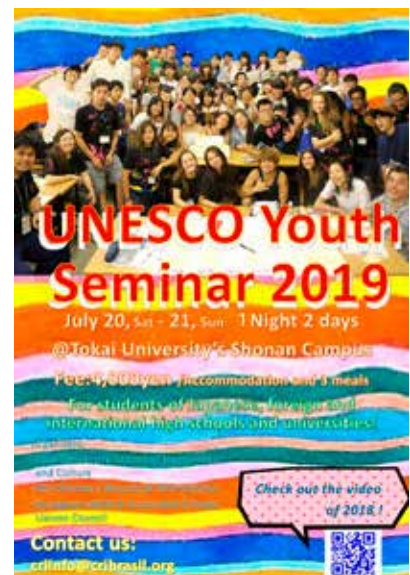
本学は主に神奈川県内の学校を担当しており、チャレンジ期間中の学校や新規加盟申請を希望する学校に対して、助言・指導をおこなっています。他府県にある本学の附属高校からも依頼を受けて、情報・アドバイスを提供し、その地域を担当する大学につなぐなどもしました。

03 ユネスコスクールネットワーク形成支援

神奈川県ユネスコスクール連絡協議会事務局として、例年神奈川県ユネスコスクール大会の開催をお手伝いしています。2019年は、関東地方を担当する4つの大学の共催でユネスコスクール関東ブロック大会（於：玉川大学）を開催したので、神奈川のユネスコスクール大会はその大会の一部として合流する形で開催しました。県内にはシュタイナー学校が1校ユネスコスクールに加盟しており、その学校と海外のシュタイナー教育系ユネスコスクールがネットワークを作ることに協力しています。

02 ユネスコスクール活動支援・地域連携支援

「多文化共修」をキーワードに、ユネスコスクールや加盟希望校と交流しています。留学生のチームを構成して学校を訪問するのが一つの活動、2019年で5回目になる UNESCO ユースセミナー（右の写真参照）の開催がもう一つの活動です。後者は、ユネスコスクールの高校生や教員たちが「日本の中の多文化」と出会う機会を設けるものです。県内外の外国学校の高校生や教員とともに、本学の湘南キャンパスに1泊2日で集い、ESDやGCEDのテーマについて深く話し合っています。2019年はブラジルの日系社会からのユース訪問団も参加して、「コスモポリタン・ジャパン」をテーマに議論しました。



ESD 活動紹介

プロジェクトベースで地域連携型の ESD 活動を多数実施

本学の教養学部は人間環境、国際、芸術の3学科からなり、学際的なアプローチで環境、国際理解、平和、人権、地域の文化などに関する教育を推進しています。異なった専門分野から集まる教員たちが共同でプロジェクトを立ち上げ、異なった学科の学生を集めて座学の授業とフィールドでの実習をおこなうなどしています。

現在進行中の ESD 関連プロジェクトの例：

- アースミュージアムプロジェクト
- 多文化子どもプロジェクト
- 北東アジア環境共生プロジェクト
- 湘南地域ブランド創造プロジェクト

金沢大学

住所 〒 920-1192 石川県金沢市角間町
URL <http://www.kanazawa-u.ac.jp>
<http://www.hokuriku-esd.org>

担当 人間社会研究域学校教育系 加藤 隆弘
TEL : 076-264-5588
kato@ed.kanazawa-u.ac.jp

ユネスコスクール支援内容

01 ユネスコスクールなどへの活動支援

北陸地区では金沢大学をはじめとした多くのユネスコスクール支援大学、および ESD コーディネーターが活動しています。この豊かなリソースをつなぎ、活用して、ユネスコスクールや ESD に取り組む学校、教育委員会などの実践支援、学校・実践研究支援をおこなっています。具体的には、1) 教育委員会と連携した ESD 研修会などへの講師派遣、研修会などの開催支援、2) 教員免許状更新講習での ESD 講習の開講、3) 各学校での校内研修、公開研究会への講師派遣、4) 最新の話題・情報提供などをおこなっています。

これからユネスコスクールを目指す学校では、ESD の理念や世界の動きなどの概論について講習をおこなったり、各地での実践事例を紹介しながら、これからの授業づくりを先生方とともにおこなっています。また、既に取り組んでいる地域、学校では、それぞれの実践を紹介し合いながら、今後さらに発展させていくための課題の洗い出し、カリキュラムの改善案の構築などを講義・ワークショップ形式で実施しています。そのほか、Web サイトを通じて、ユネスコスクールや ESD に関わる最新情報、全国の公開研究会情報、研修会情報などを随時、提供しています。

02 ユネスコスクール加盟申請支援

ユネスコスクール加盟を申請している学校、ユネスコスクールに関心を持つ学校に対して、理念や授業実践に関わる研修会の開催、授業づくりへの支援や実践に参観しての指導助言、加盟申請書などの作成支援を継続しておこなっています。



03 北陸域内または他地域のユネスコスクールとの交流支援

北信越ユネスコスクール交流会（8月・写真）、ESD 富山シンポジウム（1月）の開催などを通じて、各地域の実践や課題、成果の交流促進を図っています。また、域内学校や教育委員会からの依頼を受けて、国内他地域・学校の実践紹介や、コーディネーター、実地研修の仲介をおこないました。

ESD 活動紹介

金沢大学では、金沢大学グローバルスタンダード（KUGS）に基づく ESD 教育を推進しています。ESD 選択必修科目を設置し、多くの学生が ESD について学んでいます。また、現職教員向けの ESD 推進の手引きの作成・配布、各県ユネスコ協会との連携、北陸各県、市町等各行政機関との連携を進めるとともに、北陸地域での大学間ネットワークの構築、北陸 ESD コーディネーターの組織化を進め、ESD 研修・研究会の開催や情報交流・発信に取り組んでいます。

信州大学教育学部

住所 〒 380-8544
長野市西長野 6 の口

URL <https://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/education/>

担当 学校教育教員養成課程国語教育コース
教授 西 一夫
TEL : 026-238-4034
kyoesd@shinshu-u.ac.jp

ユネスコスクール支援内容

01 ユネスコスクール加盟申請の支援

信州大学教育学部は長野県内の小・中・高等学校などのユネスコスクール加盟申請を支援しています。ユネスコスクールへの加盟を検討している学校や、実際にチャレンジ期間に入っている学校を対象に、活動実践への指導や助言をおこなうほか、要望に応じてコーディネーターが学校に出向いて、教職員全員を対象としたESD/SDGsの出前研修会をおこなっています。今年度は豊科南小学校(安曇野市)、遠山中学校(飯田市)など8校に対して支援を実施しました。

ESD 活動紹介

01 地域連携・交流支援

信州大学教育学部は長野県内にESDを普及し、またその実践を推進することを目指して、2017年2月に「信州ESDコンソーシアム」を立ち上げました。信州ESDコンソーシアムには各ユネスコスクールやその加盟希望校のほか、教育委員会、民間ユネスコ協会、NGO、企業・団体など多様な主体が参加しており、県内ユネスコスクールの活動を支援するプラットフォームとしても機能しています。信州ESDコンソーシアムでは、ユネスコスクールで学ぶ子どもたちが日頃のESD実践の成果を互いに発表し合い、交流を通じて学び合う「成果発表&交流会」を、信州大学を会場に毎年開催しています。また全国のユネスコスクールなどとの交流を促進するため、ユネスコスクール全国大会など県外の交流機会への参加支援をおこなっており、多くの学校に活用されています。



他BRからの参加者も受け入れて開催された
「山ノ内町教職員ESD野外研修会」8月

02 ユネスコスクールの活動支援

信州大学教育学部はユネスコスクールに加盟済みの学校に対しても、活動実践に対する各種支援をおこなっています。日常的に学校訪問をおこないながら活動実践に対して指導・助言をおこなうとともに、課題や要望をうかがい、時宜に合った支援を提案しています。支援内容はESD/SDGsの出前研修会の開催や校内研究会・授業公開への参加、活動をサポートする外部団体などのコーディネートなど、教職員を対象としたものが中心ですが、コーディネーター自身がゲストティーチャーとして直接、子どもたちに関わることもあります。今年度は山ノ内南小学校(山ノ内町)、文化学園長野中学・高等学校(長野市)など13校に対して多様な支援を実施しました。

02 ユネスコエコパーク(BR)を活かしたESD

信州大学は『ユネスコエコパークを活用した学校教育におけるESD/SDGsの普及・深化と実践モデルの開発』で、平成31年度SDGs達成の担い手育成(ESD)推進事業に採択されました。この事業ではBRを活用したESDについて情報収集と調査研究を進めることと併せて、教育関係者の交流と学び合いを通じてBRにおけるESDの普及と活性化を図ることを目指しています。2019年度は、志賀高原BR管内の山ノ内町でおこなわれたESD関連行事や研修会に、白山BRやみなかみBRからの参加者を受け入れました。また11月には中部地方ESD活動支援センターとの共催で、飯田市(南アルプスBR)において「ESD推進のためのダイアログin飯田：ユネスコエコパークを活かしたESDによる地域創生」を開催し、志賀高原BR、只見BR、綾BRからの参加者との交流と学び合いを通じて、BRとESDとの関係やその相乗効果について理解を深めました。



「ESD推進のためのダイアログin飯田：
ユネスコエコパークを活かしたESDによる地域創生」11月

静岡大学教育学部

住所 〒422-8529
静岡市駿河区大谷 836

URL <http://www.shizuoka.ac.jp/>

担当 教育学部学校教育講座
田宮 縁
TEL : 054-238-4695
tamiya.yukari@shizuoka.ac.jp

教育学部美術教育講座
芳賀 正之
TEL : 054-238-4658
haga.masayuki@shizuoka.ac.jp

教育学部社会科教育講座
池田 恵子
TEL : 054-238-4597
lkeda.Keiko@shizuoka.ac.jp

ユネスコスクール支援内容

01 全国幼児教育 ESD フォーラム 2019

幼児教育分野において、初の全国フォーラムを10月18日（金）、19日（土）に「SDGs 未来都市」静岡市で開催しました。ESDの推進拠点として積極的に質の高い幼児教育を実践している静岡市内のユネスコスクール（5園）を中心に、「ESDを基軸とした質の高い幼児教育の推進と学校種間の接続」をテーマに全国の優れたESDの実践や研究交流の場となりました。

4本の講演、全体会、分科会、ポスターセッション、トークセッションの中で、講演者、発表者、参観者のいろいろな形態での交流がありました。また、静岡市立こども園、静岡県生活科・総合的学習教育学会の先生方が運営を担い、静岡市企画局、環境局、日本平動物園がブースを出展するなどユニークな運営体制もこのフォーラムの成果と考えています。2日間で、350名の方々にご参加いただきました。



02 ユネスコスクールの遊びと生活展

今年も全体の企画・運営は静岡大学教育学部でおこない、展示やミニ講演、ESD・国際化カフェについては、ユネスコスクールの静岡市立こども園5園を中心に企画していただき、11月29日（金）、30日（土）、12月1日（日）に静岡ホビースクエアで、「ユネスコスクールの遊びと生活展」を実施しました。出展したこども園も昨年度より2園増え、26園の遊び作品が会場を飾りました。また、今年度のミニ講演は、ESDコーディネーター（前静岡市立東豊田こども園園長）の鈴木 富美子氏による「ユネスコスクールの役割と課題～申請時の理念に立ち返る」というテーマでした。



ユネスコスクール以外の静岡市立こども園にも、徐々にESDの理念が浸透し、ESDプロジェクトを前面に出した遊び作品と解説を展示している園もありました。グローバルシチズンシップの基礎となる協働的な遊びの足跡を体感できるイベントでした。3日間で、教育関係者、保護者、子ども、学生など410名が来場され、実際に触れたり遊んだりしながら楽しめました。

ESD 活動紹介

第3回 ESD 教員養成国際会議：ESD International Forum 2018 in 静岡

しずおか中部連携中枢都市圏地域課題解決事業助成金を受け、静岡市企画課「SDGs 普及啓発向上に向けた分かりやすい広報戦略」という課題に学生とともに取り組んでいます。依頼内容は広報資料の作成を中心としたしずおか中部連携中枢都市圏への広報です。内容については、志太地区校長会小学校部研修会にて、48名の校長先生に「オランウータンから学ぶ持続可能な社会と私たちの生活～MDGsからSDGsへ～」をおこないました。また、試作品は、TGC（東京ガールズコレクション）静岡（2020年1月11日実施予定）のブースに出展し、効果のアンケート調査をおこないます。



岐阜大学

住所 〒 501-1193 岐阜県岐阜市柳戸 1-1

URL <http://www.gifu-u.ac.jp/>

担当 教育学部英語教育講座
教授 巽 徹
TEL: 058-293-2315
ttatsumi@gifu-u.ac.jp

ユネスコスクール支援内容

岐阜県下の小・中・高等学校へのユネスコスクール活動支援

岐阜大学は、2011年度にユネスコスクール支援大学間ネットワーク (ASPUnivNet) に加盟し、岐阜県・岐阜市の教育委員会や県下のユネスコ協会、その他関係機関と連携しながら、県下のユネスコスクール拡大に取り組んでいます。

現在、岐阜県下では48校(2019年12月現在)が加盟しており、それぞれ地域に根ざした特色のある活動をおこなっています。2017年度よりユネスコスクールの加盟申請方法や内容が刷新され、現在、加盟申請手続きをおこなっている学校は岐阜県立大垣工業高等学校1校のみになりますが、今後は普及と拡大が期待されます。下記に、2019年度の主な活動をASPUnivNetの機能別に紹介します。

01 ユネスコスクール加盟支援

上記にも述べたように、現在、岐阜県立大垣工業高等学校がユネスコスクール加盟申請手続きをおこなっています。既にチャレンジ期間を終了した同校に対して、必要に応じて支援を継続し、進捗状況を確認しています。

02 ユネスコスクール活動支援

現在、ユネスコスクールである岐阜市立青山中学校と岐阜県立八百津高等学校の活動支援を充実させるため、11月9日(土)に中部大学、静岡大学、三重大学、愛知教育大学、ESDコンソーシアム愛知、本学主催にておこなわれた「ユネスコスクール中部ブロック グッドプラクティスフォーラム」にて、同校の発表を参観しました。青山中学校からは地域の方々とつながりや地域の環境をどのように守り、より良くしていくか、一人ひとりの生徒が考えられるようにすることを目指して活動を継続しているとの報告がありました。また、八百津高等学校からは人道教育、キャリア教育、ふるさと教育を三本柱に学年ごとに取り組んでいるとの報告がありました。本学は同校らの活動に対して、さらに活動を発展させるための助言・提案をおこないました。

2020年3月1日(日)には岐阜県ユネスコ協会主催の「ESDパスポート体験発表会」に本学も参加する予定です。県下の学校の活動の様子を把握するとともに、今後も県下の学校のユネスコスクール加盟への関心を高め、ユネスコスクールの加盟申請方法や内容について広く周知するとともに、加盟後の継続的な活動発展に寄与することを目指しています。

ESD 活動紹介

ユネスコスクール ESD 活動の支援

- 学校側の要望に応じて、ESDに関わるさまざまな専門分野の教員や外国人留学生の派遣をおこなっています。

愛知教育大学

住所 〒 448-8542
愛知県刈谷市井ヶ谷町広沢 1
URL <https://www.aichi-edu.ac.jp/>

担当 地域連携センター長 西淵 茂男
地域連携副センター長 大鹿 聖公
地域連携課地域連携係長 島村 瑞穂

TEL: 0566-26-2716
chiiki@m.auecc.aichi-edu.ac.jp

ユネスコスクール支援内容

ユネスコスクール加盟申請への支援と加盟校の充実を目的とした取組の支援

愛知県は、160 校余のユネスコスクール加盟校があり、各学校において活動が展開されています。本学は各校の活動の充実と、今後の展開を志向した教育・活動支援をおこなっています。また、県内ユネスコスクール関連機関と連携し、ユネスコスクール活動の支援をおこなっています。県内ユネスコスクールの交流および学校間のネットワークづくりの支援を目的として、「愛知県ユネスコスクール指導者研修会」を 2019 年 12 月に開催しました。また、以下の 2 点についてユネスコスクール支援に関する事業をおこないました。今年度は、新たに加盟を希望する 2 校に対して支援をおこなっています。

01 附属学校園との ESD・SDGs に関する共同研究

2018 年度から、ユネスコスクールである附属学校園との間で、ESD・SDGs に関する教育プログラムの共同研究に取り組んでいます。2018 年度は、防災教育に視点をあて、地震と気象災害における生徒の防災意識の向上や予測判断をねらいとした中学校向け教育プログラムを開発し、実践をおこないました。2019 年度は、愛知県や名古屋市が SDGs 未来都市に認定されたことを受けて、小学校児童を対象に SDGs について学ぶプログラムの開発をおこない、授業実践をおこなっています。

02 愛知県環境イベント・ユネスコスクール事業への協力

愛知県が刈谷市と共催で開催した環境イベントやユネスコスクール交流会に協力し、SDGs 教育プログラムの紹介をおこなうブース出展やピオトープでの環境学習をおこないました。

ESD 活動紹介

01 科学・ものづくり教育

愛知県は自動車産業の集積地であり、特にものづくりが盛んな西三河地方に位置する本学は、教員養成系大学という特性を活かして、理系・文系の専攻を問わず、高い科学・ものづくりの知識と技能、そして教育実践指導力を有する教員を養成しています。また、科学・ものづくりに関する各種の教育・研修を提供するとともに、種々の教材を開発して、理科実験セットの学校への貸与や訪問科学実験、ものづくり教室などを学内外で数多く実施しています。一方、現職教員に対する理科実験講習会の実施、科学・ものづくりフェスタの開催などを通して、学校教育の場や地域における科学・ものづくり教育の向上と推進、そして活性化を図るための拠点となる取組をおこなっています。

03 国際理解・国際交流

本学の大学憲章「国際交流の推進」に基づき、留学生の積極的受け入れおよび派遣を通して世界の教育と文化的発展に貢献しています。国際交流センターに、留学生支援・協定校交流支援部門と国際協力部門を設置し、学生や学術の交流をはじめ、国際協力のあり方の検討、地域の国際化支援などの活動をおこなっています。

02 地域企業・団体との協働による教育活動の展開

- 企業の CSR 活動である「小学校の川の環境学習」に本学の学生が協力し、地域児童の環境学習を支援。
- トヨタ車体（株）が環境学習の場として本学と協働で設置し、教育活動を展開するピオトープにおいて、本学の学生が環境学習プログラムを作成し、子どもたちに実践することで地域と連携した ESD 活動の推進に貢献。



トヨタ車体自然体験活動

- 企業が学校向けに取り組んでいる防災に関する出前授業プログラムの開発に協力。

中部大学

住所 〒487-8501
愛知県春日井市松本町1200

担当 現代教育学部
宮川 秀俊
TEL: 0568-51-7597
miyakawa@isc.chubu.ac.jp

国際ESD・SDGsセンター
古澤 礼太
TEL: 0568-51-7618
reita@isc.chubu.ac.jp

国際ESD・SDGsセンター
影浦 順子
TEL: 0568-51-7511
kageura@isc.chubu.ac.jp

ユネスコスクール支援内容

ユネスコスクールへの加盟申請の支援、加盟校の活動の充実と展開の支援、国内外の学校との交流支援

1. ユネスコスクールへの加盟申請にあたり、手続き（内容と方法）の支援をおこなっています。
2. ユネスコスクール加盟校に対して、ESD活動の充実と展開など、今後に向けた協力をおこなっています。
3. 愛知県ユネスコスクール支援会議との協力体制をとるとともに、愛知県の関係組織・団体との連携をおこなっています。
4. 本年度は、ユネスコスクール中部ブロックグッドプラクティスフォーラムを開催しました。
5. 国際協力機構（JICA）の研修員に、学校教育におけるESD活動を紹介するとともに、ユネスコスクールを訪問して、教育実践の内容と方法について理解を深めていただいています。
6. 国内外のユネスコスクールとの交流を推進するために、海外の学校を訪問したり、海外の関係者を招へいして交流をおこなっています。



ESD 活動紹介

国連大学の中部 ESD 拠点、中部大学の ESD 研究・教育、併設 3 校の ESD 活動、など

中部大学は、2007 年より国連大学から認定を受けた中部 ESD 拠点（RCE: Regional Centre of Expertise on ESD）の幹事機関として活動しています。

- 中部大学における ESD 研究：学部や専門性の枠を超えた多様な研究者による ESD および SDGs に関わる研究会やシンポジウム、講演会を開催しています。
- 中部大学における ESD 活動および普及啓発：領域横断的な発想と知識をもつ人材を育成するための教育プログラムを実施しています。
- 併設の中部大学第一高校、中部大学春日丘高校、中部大学春日丘中学校は、ESD を推進するユネスコスクールとしてさまざまな活動をおこなっています。
- 国際協力機構（JICA）の研修員を対象として、持続可能な社会に向けた『産業技術教育』の研修をおこなっています。
- ESD 活動の一環として、トヨタ産業技術記念館で「間伐材を使ったものづくり」を開催し、教師を目指している大学生が小学生に森林環境の大切さを伝えています。



三重大学

住所 〒 514-8507 三重県津市栗真町屋町 1577

URL <http://www.mie-u.ac.jp/>

担当 人文学部教授 朴 恵淑
TEL : 059-231-9157
park@human.mie-u.ac.jp

ユネスコスクール支援内容

01 県内ユネスコスクール・本田技研工業(株)との連携による「IATSS FORUM」の支援

2019年6月19日に「四日市公害と環境未来館」および「三重大学北勢サテライト」を会場として、「IATSS FORUM」をおこないました。同フォーラムは、東南アジア10ヶ国の産官学民の各分野から選ばれた20名の若者を鈴鹿市にある本田技研工業(株)へ招聘し、2ヶ月間の研修をおこなう国際人材教育プログラムです。61回目となる今回のフォーラムでは、主なテーマにSDGsを掲げ、三重大学の朴教授による講演やユネスコスクールの高校生などを交えたワールドカフェ形式の討論会を開催しました。特に、四日市公害の克服とその教訓を活かした「持続可能なまち創り」についての真剣な討論がおこなわれ、国際人材の育成においても大きな成果をあげることができました。

02 県内ユネスコスクール・中部電力(株)との連携による「エネルギー環境教育」の支援

2019年8月7日に、ユネスコスクールの生徒および留学生を含む大学生を対象とした夏休みの自由研究として、県内最大の発電所である川越火力発電所などを見学し、それに基づく壁新聞の作成や発表会をおこないました。今世紀最大の環境問題である気候変動(地球温暖化)の対策がエネルギーマネジメントに大きく依存することから、「エネルギー環境教育」はESDの最も重要な部分を占めています。特に、2011年3月の東日本大震災以降、適切なエネルギー対策が求められるなか、一次エネルギー自給率がわずか6%の日本において、次世代を担う若者への「エネルギー環境教育」は最も重要なテーマとなります。大学と企業とのパートナーシップによる「エネルギー環境教育」は、21世紀最大の環境問題である地球温暖化対策において、次世代を担う人材育成の必要不可欠な要素となっております。



03 県内ユネスコスクール・三重県・行政機関との連携による「みえ環境フェア2019」の支援

2019年12月15日に、産官学民の連携による県内最大の環境フェアである「みえ環境フェア2019」が開催されました。同フェアでは、鈴木知事による「ミッションゼロ2050みえ」が宣言され、三重創生のリーダーシップを国内外へアピールしました。また、本学朴教授をコーディネーターとし参議院議員の嘉田由紀子氏をゲストに迎えた環境トークでは、「四日市公害の教訓を生かした世界をリードする環境先進県創りへの期待」や「マザーレーク琵琶湖を守る活動」などの話題が討論され、SDGsやESDに取り組むことの重要性を再認識する格好の機会となりました。



ESD 活動紹介

01 「ユネスコ世界遺産熊野古道」修学ツアーの実施

2019年12月14日に、三重大学と木本高校の共催(三重県の協力)による「熊野古道」修学ツアーをおこないました。教職員と学生(留学生を含む)30名が、木本高校生の英語による説明を受けながら松本峠などを修学し、その模様は12月21日に開催された三重県主催の「熊野古道世界遺産15周年フィナーレイベント KUMANO KODO Fest」でパネル展示されました。



京都外国語大学

住所 〒 615-8558 京都市右京区西院笠目町 6

URL <http://www.kufs.ac.jp>

担当 グローバルスタディーズ学科 影浦 亮平
TEL : 075-322-6187
r_kageura@kufs.ac.jp

ユネスコスクール支援内容

01 ユネスコスクール加盟申請支援と ユネスコスクール活動支援

京都外国語大学は主に京都の小・中・高等学校のユネスコスクール加盟申請の支援をおこなっています。今年度は1校（広島）の申請を支援しています。また、京都府下のユネスコスクールの活動を支援しています。京都市の高校のユネスコスクールのネットワークである ASPnet Kyoto の活動を支援しており、月例会議にも出席しています。



02 ASPnet Kyoto 上賀茂神社ワークショップ の支援

今年度は「京都の過去・現在・未来と SDGs」をテーマにし、ユネスコスクール8校からの高校生が参加しました。ゲストスピーカーとして、斎藤久也氏（京都市）を招きました。斎藤氏の講演を通じて京都市のSDGsの取組を学び、さらにワークショップで「20年後どうありたいか」について考えました。また、それぞれの高校が自分たちのESD活動を紹介しました。このイベントを京都外国語大学のユネスコ・チームと教員たちで支援をしました。

03 高校の模擬国連の支援

第28回関西高校模擬国連大会の支援をしました。今年のアジェンダは「Reducing Poverty Through Sustainable Development」でした。

ESD 活動紹介

01 模擬国連大会の開催

今年度は6月に神戸市外国語大学で「Promoting Jobs and Protecting People」をテーマに日本大学英語模擬国連大会(JUEMUN)が開催され、京都外国語大学も支援しました。また、京都外国語大学国際貢献学部グローバルスタディーズ学科の中でも模擬国連を実施しています。

02 Community Engagement の実施

国際貢献学部においては、2年生を対象に Community Engagement Program を国内外で実施しました。地域コミュニティの人々とともに地域課題を解決することを目的とした現地活動に取り組むことを通じて、学生たちは体験に基づく学びを深めました。



大阪府立大学

住所 〒 599-8531 大阪府堺市中区学園町 1 番 1 号

担当

人間社会システム科学研究科 教授
吉田 敦彦

同研究科 教授
伊井 直比呂

URL <http://www.osakafu-u.ac.jp/>

ユネスコスクール支援内容

01 ユネスコスクール加盟校への支援

地域でのユネスコスクールへの活動支援は、2019 年度パートナーシップ事業『近畿・北陸ブロック:地域ブロックにおけるユネスコスクールネットワークの構築・発展』の受託大学として、ネットワーク活動の広がり、「学び合い」による ESD・SDGs の深化を意図した学習推進を支援しました（協力：姫路市教育委員会、姫路市環境政策室、金沢大学、京都外国語大学、奈良教育大学ほか）。

主たる運営は、大阪・関西のユネスコスクールが加盟する『大阪・関西ユネスコスクール〈ASPnet〉ネットワーク』が、中国での中心的ユネスコスクールである『中国人民大学附属中学』（小中高）との協働でおこない、併せて各ユネスコスクールの“School Coordinator”や生徒たちが自律的に計画へ運営を担っています。また、大阪だけでなく、富山県、兵庫県、奈良県、京都府、和歌山県（23 校 152 名）などからの参加は、重要な地域連携の広がりだけでなく、異なる生活文化圏からの参加によって児童・生徒・教員相互の視野と視野を開きました。ここでも世代や地域を超えた未来への確信を共有することができます。



02 加盟申請支援

ユネスコスクール加盟申請の相談と具体的な手続きの支援依頼が多くあります。方針は、国際的に展開するユネスコスクールが進める学習領域を、既存の学校内実践の延長に留めることなく、国内活動のみの論理から解放して本来の国際的な Mutual Learning として推進できるようにすることです。そのために、連絡があれば必ず当該学校を訪問し、国際展開にふさわしい教育資源や実践蓄積をユネスコスクールの学習領域に適合させることへの可能性などを直接話し合います。2019 年度は、11 校延べ数十回（2019 年 12 月時点）にも及ぶ訪問と来訪を繰り返して進めています。各校からは、(ESD 以前に)ユネスコスクール加盟を通じた教育の国際化への意欲が伝わります。



ESD 活動紹介

ESD 推進と社会貢献

大阪府立大学は、全学域全学類の各分野で「持続可能性」をテーマにして（微力ながら）社会貢献をおこなっています。例えば、人間社会システム科学研究科では、教育学、福祉学、哲学、言語学、文学、社会学、工学、農学、情報学、心理学などの分野が学際的に連携することで異なる知見が影響し合います。この環境での学修が「世界」と「地域」を視る目を深め、各地域にふさわしい持続可能性を問う素地を形成します。以上の背景より、本学にはユネスコスクールからだけでなく、地元の多様な学校から研究室訪問や出前授業の依頼、あるいは学校や教育委員会からの相談が多数あります。つい先日は、大阪市立の中学生と教員（10 余名）が、ESD の自由研究活動で「教育福祉学類」を訪ねてくれました。各分野の研究室では活発な質問があり、難しい概念を一生懸命に理解しようとする姿がありました。近い将来彼らはきっと私たちを超えた概念を創り出してくれるに違いないでしょう。ほかにも、海外のユネスコスクール関係者が工学研究科での超電導研究や、人間社会システム科学研究科での海洋汚染の最先端浄化研究など、持続可能性と SDGs を考える研修視察がありました。大切なことは、どのような分野であっても私たちの理性を成長させ、未来に暮らす世代を超えた世界の人々の笑顔につながる、との確信を共有することです。



奈良教育大学

住所 〒 630-8528 奈良県奈良市高畑町

URL <https://www.nara-edu.ac.jp/>

担当 次世代教員養成センター 教育研究支援課 ESD 事務担当
准教授 中澤 静男 西田
TEL : 0742-27-9269 TEL : 0742-27-9367
nakazawa@nara-edu.ac.jp k-soumu@nara-edu.ac.jp

ユネスコスクール支援内容

ユネスコスクール加盟支援

奈良教育大学は、奈良・和歌山・滋賀を担当エリアとして、ユネスコスクール支援活動をおこなっています。2019年度は滋賀県の長浜市立高時小学校のユネスコスクール加盟支援活動を展開しました。公立学校の場合、ESD に熱心な管理職や先生が異動されると、活動が縮小してしまうという傾向があるため、ホールスクールアプローチが重要です。そこで、校長先生と相談し、小学校の全教員を対象に、本学が開発した、教員の ESD 指導力を高める研修である ESD ティーチャープログラムを実施しています。全 5 回の系統的な研修で、先生方の ESD 実践力が確実に向上していると感じています。

もう一つとして、昨年度より福岡教育大学と連携し、熊本市立北部中学校の ESD 研修会を支援してきました。11 月 30 日に開催されました。第 11 回ユネスコスクール全国大会で、北部中学校が ESD 大賞中学校賞を受賞されました。校長先生始め、すべての先生方と受賞を喜びあうことができました。



高時小学校での ESD ティーチャープログラム

ESD 活動紹介

岡山倉敷スタディーツアー

奈良教育大学のユネスコクラブおよび ESD ティーチャープログラム受講学生が中心となって、昨年、西日本豪雨災害復興ボランティアとして、被災家屋の片付けなど現地での支援活動に 11 回参加し、帰ってからはその報告会を開催しました。この活動が評価され、ガールスカウト日本連盟が主催するコミュニティー・アクションアワード 100 のチャレンジ賞を受賞しました。今年度も 12 月 7・8 日に、18 名の学生が、倉敷市真備町を訪問し、写真洗浄などのボランティア活動に従事しました。参加した学生からは「災害復興支援と言えば物資などの支援のイメージが先行してしまいがちだが、そのような形の支援だけでなく思い出の写真などを洗浄することで、被災された方々の一生の大切な思い出を取り戻すことができることが分かった」という意見が出るなど、活動を通して実感として ESD を学ぶ機会となっています。



被災した写真を洗浄するボランティア

岡山大学

住所 〒700-8530 岡山県岡山市北区津島中 1-1-1

URL https://edu.okayama-u.ac.jp/promotion_center/aboutus/

担当 大学院教育学研究科 ESD 協働推進室

川田 力

TEL : 086-251-7723

藤井 浩樹

TEL : 086-251-7637

esdpc@cc.okayama-u.ac.jp

ユネスコスクール支援内容

01 ユネスコスクール支援大学間ネットワークでのユネスコスクール支援

岡山大学は、ユネスコスクール支援大学間ネットワーク(ASPUUnivNet)の創設期からの加盟大学です。2013～2015年度には事務局担当大学(2015年度途中からは運営委員会構成大学)となり、文部科学省・ユネスコスクール事務局(ACCU)と協働して、大学によるユネスコスクール支援について企画・実施・評価・改善のリーダーとしての役割を担ってきました。

教育学研究科は2010年度に「ESD 協働推進室」を設置し、ユネスコスクールおよび加盟を目指す学校への研修会講師派遣、ESDを実践しようとする教員からの相談への対応など、ESD実践に対するさまざまな支援をおこなっています。

02 岡山地域を中心としたユネスコスクール支援の取組

岡山地域を中心としたユネスコスクールへの支援として、岡山県ユネスコスクール高校ネットワークの活動を支援しています。具体的には、年1度開催される「実践交流会」とその事前学習会の企画・運営に対するアドバイス、および学生スタッフの養成・派遣をおこなっています。「実践交流会」はRCE岡山の協力を得ながら、毎年多様なESDの学習プログラムを企画しています。2019年度は姉妹都市ブルガリア・ソフィアから教員・生徒12名を迎え、料理・スポーツ・観光など生徒主体のさまざまなプログラムを実施し、交流を深めました。

企画段階からユネスコスクールOB/OGを含めた教員志望学生が継続的に参画することで、将来のESDを担う人材育成に貢献しています。



実践交流会「未来をつなぐ高校ESD」

ESD 活動紹介

01 全学でSDGs達成を推進、その鍵となるESD

岡山大学は全国の大学に先駆けて『SDGsに関する岡山大学の行動指針』(2017年)を定めています。それは「SDGs(持続可能な開発目標)の達成に貢献する活動に取り組み、持続可能な社会の実現を牽引していく」ことです。

この行動指針のもと、全学を挙げてSDGsの達成に向けた取組を進めています(Whole Institution's Approachと呼んでいます)。2017年度には岡山大学SDGs推進本部を設置し、SDGs達成の観点を取り入れた大学経営体制を整備するとともに、2017年12月には国連大学サステナビリティ高等研究所やユネスコ、RCE岡山と協力して「SDGsの達成に向けたRCE第1回世界会議」を開催し、地域および国際社会とのパートナーシップを構築しています。そしてこれらの活動が評価され、2017年12月に国公立大学で唯一の「第1回ジャパンSDGsアワード」を受賞しています。ESDはSDGs達成の鍵であり、高等教育におけるESDの教育研究を多方面に展開しています。



2019 ESD教師教育世界大会(岡山)

02 ESDの理念を位置づけた教員養成、ESDの教師教育推進に向けた国際研究拠点の構築

岡山大学の全学教職課程は「ESDの理念をもち、4つの力で構成される教育実践力をバランスよく身につけた反省的で創造的な教員」を育てることをディプロマ・ポリシー(DP:修了時の到達目標)に掲げています。教育学研究科では、このDPの実現に向けて、必修科目にESDの基礎的理解に関する内容を盛り込むとともに、ESDの実践力向上を目指す「ESDの理論と実践」を開講しています。

また、アジア唯一のESDのユネスコチェアならびにRCE岡山の主要機関としてESDの教師教育を推進してきたことから、日本学術振興会研究拠点形成事業「ESDの教師教育推進に向けた国際研究拠点の構築」(2017-2019年度)、政府開発援助ユネスコ活動費補助金事業「SDGsターゲット4.7の達成に向けた

『ESDの教師教育のアジア太平洋スタンダード』の開発」(2018-2019年度)を実施しました。アジア太平洋地域16か国34の教師教育機関と連携しながら、教師教育を持続可能性の考え方を取り入れたものへと再方向付けすることを目指し、そのフレームワークとガイドの共同開発を進めてきました。

関連URL

<http://ceteesd.ed.okayama-u.ac.jp/>

広島大学大学院教育学研究科

住所 〒739-8524 広島県東広島市鏡山 1-1-1
URL <http://www.sdgconsortium.hiroshima-u.ac.jp/>

担当 ユネスコスクール委員会 委員長 由井 義通
TEL : 082-424-6804
unesco-ed@ml.hiroshima-u.ac.jp / yyui@hiroshima-u.ac.jp

ユネスコスクール支援内容

01 ユネスコスクールの支援

2019年度は、山口県内の高等学校1校、広島県内の小学校2校、中学校1校、中高一貫校1校、岡山県内の高等学校1校の加盟申請を継続して支援しています。ユネスコスクールの教員2名を、全日本高校模擬国連大会に派遣しました。

02 広島県ユネスコ ESD 大賞の開催

広島県ユネスコ連絡協議会との共催により、広島県ユネスコ ESD 大賞の表彰をおこないました。小・中学校等部門：熊野町立熊野第一小学校、高等学校等部門：福山県立福山誠之館高等学校、広島大学大学院教育学研究科長賞：広島市立戸山小学校・戸山中学校が表彰されました。

ESD 活動紹介

01 ユネスコスクールの支援

2019年度は、研修会4回、ワークショップ2回を開催しました。第1回研修会では、東洋大学米原 あき教授より「ESDを『開封unpack』する～協働のツールとしての評価～」、広島大学吉田 和浩教授より「SDGs達成のために求められる資質・能力の育成」と題して講演をいただきました。また広島県内のESDに取り組む学校3校の実践発表もおこないました(2019年7月)。第2回研修会では、琉球大学大城 賢教授より「SDGs達成のためのグローバル・コンピテンシーの育成：外国語活動・外国語により育成する能力」と題して講演ならびに授業づくりワークショップをおこなっていただきました(2019年10月)。第3回研修会では、福岡教育大学山元 悦子教授より「共創的コミュニケーション能力の育成を目指して」、愛媛大学吉村 直道教授より「グローバル・コンピテンシーの育成を支える教育的態度とは？—算数・数学の学習場面をもとに—」と題して講演ならびに授業づくりワークショップをおこなっていただきました。(2019年10月)。第4回研修会では、日本体育大学金本 良通教授より「グローバル・コンピテンシーとしての表現力・コミュニ



ケーション能力を育てる授業づくり」、株式会社日能研代表取締役高木 幹夫氏より「SDGs達成のための新学力の育成」と題した講演をいただきました。また、全国各地のESDやSDGsに取り組む学校4校の実践発表をおこなっていただきました(2019年12月)。第1回ワークショップでは、「海外教育実践とグローバル・コンピテンシー」と題して、青年海外協力隊経験者4名と日本人学校勤務経験者5名に話題提供していただき、参加者と意見交換しました(2019年11月)。第2回ワークショップでは、立教大学高橋 敬子氏より「ミステリーとは何か？その特徴と海外での活用事例について」と題して、講演ならびにワークショップをおこなっていただきました。

02 持続可能な地域の担い手を育む取組

東京都において開催されたフォーラム「SDGsを地域で達成していくための地域づくり」に学生を派遣しました(2019年12月)。地域における環境とエネルギー学習の一環として、学生が竹原火力発電所を訪問しました。火力発電所の見学とエネルギーの課題について考えるワークショップに参加しました(2020年1月)。



福山市立大学

住所 〒721-0964 広島県福山市港町 2-19-1

URL <http://www.fcu.ac.jp>

担当 都市経営学部教授 上別府 隆男
TEL : 084-999-1107
t-kamibepu@fcu.ac.jp

ユネスコスクール支援内容

SDGs と地域課題をつなげるワークショップ、研修会などの実施

福山市は、市立の学校全 113 校をユネスコスクールに加盟させるという目標に向け動いており、2019 年 10 月現在、加盟済 14 校、審査中 11 校、チャレンジ期間中 54 校、という状況です。人口 47 万の福山市には現在 36 の学区がありますが、2018 年度から、チャレンジ期間の活動可視化の一環として、世界の目標をローカル化するための「学区版 SDGs」の作成を本学は応援しています。これは、各学区の中学校が中心となり、同じ学区の小学校や地元自治会などとの協働を通して、学区としての課題を SDGs の視点から改めて洗い出し、優先すべき SDG を作るという作業です。このため、本学は、2019 年度は、未来を担う中学生（延べ約 400 名）を対象にワークショップやパネルディスカッションを 6 回開催しました。

中学生は、事前に「総合的な学習の時間」などで SDGs や ESD について学んだ後、ワークショップなどに臨み、本学学生とともに各自の考えや思いを共有し議論しながら学区としての SDG 選定作業をおこないました。各校とも、それまでの学習の蓄積や各学区に特有の課題を踏まえたものを作り上げています。今後は、これらの学区版 SDGs を基盤に、行政、企業、外国人など多くのステークホルダーを巻き込んで、学区間の交流を進めながら「SDGs 福山版」を策定することを将来的な目標にしています。また、対象校の教職員向けの研修会を福山市と近隣の尾道市で 3 回おこない、約 35 名に参加していただきました。



ESD 活動紹介

福山市立大学の活動

本学は持続可能な都市や社会の構築を設置理念の核としており、ESD や SDGs と強い親和性を持っています。本学では、教育学部と都市経営学部の教員が多様な専門分野における教育研究成果を活用し、学外との連携事業や社会貢献事業に取り組んでいます。特に、都市経営学部は環境から国際協力まで広い学際性を特徴としており、教育や研究内容が SDGs の全目標とうまく

つながっています。主な活動には、地域の持続可能性を考える授業、公開講座などでの市民への研究成果還元、ESD に関する免許状更新講習の開講に加え、多文化共生連続ワークショップを大学主催で年 5 回開催し、持続可能な福山市にするために日本人と外国人が何かできるかを考えるリカレント教育もおこなっています。

広島市立大学国際学部

住所 〒731-3194 広島市安佐南区大塚東三丁目4番1号

URL <http://intl.hiroshima-cu.ac.jp>

担当 国際学部准教授 卜部 匡司
TEL : 082-830-1718
urabe@hiroshima-cu.ac.jp

ユネスコスクール支援内容

ユネスコスクールの支援

広島市立大学国際学部は、広島大学大学院教育学研究科と協力しながらユネスコスクール加盟申請支援およびESD実践支援をおこなっています。2019年度は、学校のユネスコスクール加盟申請支援においては、地域のユネスコスクールへの加盟支援よりも、学校におけるESDの推進の方に力を入れました。特に、広島県立安古市高等学校に本学の学生を定期的に派遣し、「総合的な学習の時間」におけるゼミ活動をサポートしました。

また、地域や国境を超えた学校間の交流支援については、ドイツの学校や大学、教育省等を訪問し、ユネスコスクール間の国際的な交流の実現可能性について模索しました。

これらの活動を踏まえて次年度以降は、本学の持つ知的リソースをユネスコスクールの活動に役立てながら、少しずつ広島地域の教育機関とユネスコスクールとの連携を促進していきたいと考えています。

ESD 活動紹介

01 ESD 科目の新設

2017年度から本学国際学研究科修士課程において講義「持続可能な開発のための教育（ESD）論」を設置しています。この講義は、2018年度から教職課程（専修免許状）の科目として開講しています。2019年度は、講義内容のさらなる充実のため、バンベルク大学（ドイツ）およびオウル大学（フィンランド）のスタッフと研究交流をおこないました。

02 広島 SDGs コンソーシアム事業のサポート

広島 SDGs コンソーシアムに加盟し、広島大学大学院教育学研究科、広島県ユネスコ連絡協議会および広島県ユネスコスクール連絡協議会などの連携による「広島 SDGs コンソーシアム研修会」をはじめ、コンソーシアム事業をサポートしています。



鳴門教育大学

住所 〒 772-8502 鳴門市鳴門町高島字中島 748

URL <http://www.naruto-u.ac.jp/incet/>

担当 副学長 小澤 大成
TEL : 088-687-6046
hiroaki@naruro-u.ac.jp

准教授 田村 和之
TEL : 088-687-6436
ktamura@naruto-u.ac.jp

ユネスコスクール支援内容

01 愛媛県新居浜市の ESD 推進事業を支援しました

新居浜市では、分校を含め市内のすべての小中学校（28校）がユネスコスクールに加盟しています。これらの学校を中心に、新居浜市教育委員会では、2015年度より4年間 ESD 推進事業に取り組んできました。その成果をさらに発展させるため、2019年度には、地域の SDGs 達成に向けた課題解決のための ESD の実践を目指し、ESD 推進事業を実施してきました。鳴門教育大学は、本事業推進のために組織された ESD-SDGs コンソーシアム（ESD 推進事業協議会）の構成メンバーとして、ESD に関する専門的知見を活用し、ESD の視点を取り入れた SDGs 達成に向けた取組を推進するため、指導・助言・協力などをおこなってきました。この協議会には、大学・高専、ユネスコ協会、信用金庫や一般企業など多様な関係者によって構成されており、新居浜市の ESD 推進事業に関するものだけでなく、ESD や SDGs に関わる構成メンバー間の情報共有などもおこなわれています（2019年7月16日・11月27日）。



02 ユネスコスクールに新規加盟した学校を支援しました

2018年度中にユネスコスクールの認定を受けた徳島県阿南市の中学校・高等学校（中高一貫校）で2019年6月14日（金）におこなわれた「ユネスコスクール」をテーマとした講演会にて、ユネスコスクールの目的がどのようなものであり、どのような活動が他のユネスコスクールでおこなわれているかについて講演をおこない、その理念や活動方法、実際の活動例について紹介しました。



03 ユネスコスクール加盟を希望する学校を支援しました

ユネスコスクールへの加盟申請に取り組んでいる高知県の小中一貫校を支援しました。当該校において、2019年では2月20日、4月17日、5月17日、6月26日、8月8日、9月20日、11月20日、全教職員に対してどのように ESD を学校での授業に取り入れていくかについての研修合計7回をおこないました。



ESD 活動紹介

徳島県教育委員会や県内小中学校を対象とした活動をおこないました

徳島県教育委員会が進めている「新 学校版環境 ISO」の委員会に大学教員1名が参加（委員長）しました。9月5日（木）には徳島県内の「新 学校版環境 ISO」の認可（3年毎に更新）について継続申請をおこない、県内約100校の小学校・中学校・高等学校の継続申請の可否について協議をおこないました。また12月には新規申請校へ実際に視察に行き、アドバイス等をおこないました。

また、10月17日（木）には、徳島県教育委員会が「新 学校版環境 ISO」に登録された小中学校に向けて開催する「エコリーダー養成講座」がおこなわれ、その中で『学校教育と SDGs』というテーマでどのように学校運営や学校教育の中で ESD を推進していくか、どのように SDGs とつなげていけばいいのかについて講演をしました。

福岡教育大学

住所 〒 811-4192
福岡県宗像市赤間文教町 1-1
URL <http://www.fukuoka-edu.ac.jp>

担当 連携推進課
TEL : 0940-35-1238
trenkei@fukuoka-edu.ac.jp

教育学部教授 石丸 哲史 TEL : 0940-35-1289
ishimaru@fukuoka-edu.ac.jp
教育学部准教授 奥谷 めぐみ
TEL : 0940-35-1474
megumio@fukuoka-edu.ac.jp

ユネスコスクール支援内容

ユネスコスクールになりたいという気持ちを最大限に尊重し、加盟への支援をおこなっています

ユネスコスクール支援大学は、2020年4月時点で九州・沖縄地方には福岡教育大学ひとつしかありません。したがって、このエリアの学校・園に対してほかのネットワーク加盟大学の応援をいただきながらユネスコスクール加盟に向けたお手伝いをさせていただいています。2019年度は、宮崎県延岡市立北川小学校・中学校、大分県立由布高等学校をはじめ保育園・子ども園から小中高校の加盟に向けたチャレンジ期間の活動についてアドバイスをさせていただきました。

ESD 活動紹介

九州の教員養成の拠点と ESD 推進の拠点としての活動

● SDGs 未来都市

福岡県内においては北九州市、福津市、大牟田市が SDGs 未来都市として持続可能な社会の構築に向けて尽力されています。本学では、ESD を「SDGs に向かうづくり」として、当該都市との連携を深めています。「北九州 SDGs 未来都市アワード」、「ふくつ SDGs アワード」が創設されたことから、この取組への支援のため本学石丸哲史教授が審査委員を務めさせていただきました。

● 福岡教育大学 ESD セミナーの開催

保育園・子ども園などでは、例えば子どもが SDGs を目指す姿が明確に看取できない場合があります。そのために、家庭や地域と連携した ESD の実践に取り組んでいただいています。この成果の発表を含め、2020年2月、SDGs 未来都市福津市において、福岡教育大学 ESD セミナー「地域を舞台とした SDGs に向かう保幼小の連携」を開催しました。

● 「持続可能な開発のための教育」の授業開設

本学は教育者素養成科目として「持続可能な開発のための教育」を開講しています。2019年度は、石丸 哲史教授のほか生物多様性を専門とする福原 達人教授、持続可能なものづくりを専門とする大内 毅教授、倫理的消費を専門とする奥谷 めぐみ准教授を授業者に加えるとともに、九州地方 ESD 活動支援センター、北九州 ESD 協議会などにご協力いただき学生の研修機会を実現することができました。

このように、ESD の推進拠点である福岡教育大学は、九州の教育養成の拠点大学としての性格から、ユネスコスクールの支援だけでなく ESD の深化・拡充についても、さまざまなステークホルダーとの連携をさらに強化し、九州・沖縄地区の拠点としての役割を今後も果たしていきます。



福岡教育大学 ESD セミナー学長挨拶



趣旨説明

協力員の紹介

成田 喜一郎

学校法人自由学園副学園長・最高学部特任教授

住所 〒 203-8521 東京都東久留米市学園町 1-8-15

URL <https://www.jiyu.ac.jp/college/>

✉ kiichiro.narita@jiyu.ac.jp

佐藤 真久

東京都市大学 環境学部・教授

住所 〒 224-0015 神奈川県横浜市都筑区牛久保西 3-3-1

URL <http://www.yc.tcu.ac.jp/>

✉ m-sato@tcu.ac.jp



ASPUnivNet 加盟大学教員及び関係者

ASPUnivNet 事務局より

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター (ACCU) では、文部科学省の委託を受け、2015 年から ASPUnivNet の事務局を運営しています。事務局では、ASPUnivNet 加盟大学によるユネスコスクール加盟申請支援や、加盟大学間の連携のための連絡調整を担っています。弊センターでは、ユネスコスクール事務局も運営していることから、その強みを活かして、高等教育機関と各地のユネスコスクールの連携を推進し、協働で持続可能な開発のための教育 (ESD) の発展を目指していけるようなサポートをおこなってきました。引き続き、ASPUnivNet 加盟大学がユネスコスクール活動を効果的に支援し、持続可能な開発のための教育 (ESD) を推進できるよう支援していきます。

ユネスコスクール支援大学間ネットワーク規約

(名 称)

第1条 本会は、ユネスコスクール支援大学間ネットワーク（以下「大学間ネットワーク」という。）と称する。英語略称は ASPUnivNet とする。

(目 的)

第2条 大学間ネットワークは、ユネスコスクールとして認定を受けた学校及びユネスコスクールに加盟しようとする学校（以下「ユネスコスクール等」という。）のユネスコスクール・ネットワーク（ASPnet）を活用した ESD 実践活動を、それぞれの大学の責任の下に可能な範囲で支援しようとするものであり、大学間ネットワークに加盟する大学等（以下「加盟大学等」という。）が、学校支援のために情報の交換を行い ESD の質の向上を図ることを目的とする。

(加盟資格)

第3条 大学間ネットワークへの加盟資格は、大学間ネットワークの目的を理解し、大学間ネットワーク事業に参画するとともにユネスコスクール等からの要請に基づく可能な範囲の支援活動を行う大学等高等教育機関（学部又は大学院研究科単位等も含む。）とする。

(運営委員会等)

第4条 大学間ネットワークの運営を円滑かつ適正に行うために、運営委員会を置く。

2 前項の運営委員会は、次の各号に掲げる体制とする。

- 一 加盟大学等から4機関を選出する。
- 二 任期は2年とし、再任を妨げない。
- 三 毎年度半数を改選する。
- 四 運営委員会委員長は、原則として任期2年目となる加盟大学等の委員のうちから互選により選出する。

2 第1項の運営委員会と連携し、業務の事務を担う組織として、公益財団法人ユネスコ・アジア文化センターに事務局を置く。

(代表等)

第5条 大学間ネットワークに代表を置き、前条第2項第4号に規定する運営委員会委員長の属する所属長又は長が指名する者をもって充てる。

2 大学間ネットワークに副代表を置くことができる。

3 代表は、大学間ネットワークを代表し、会務を統轄する。ただし、代表がやむを得ない事情により会務を統轄できない場合、副代表又は代表があらかじめ指名した者がその職務を代行する。

(活動内容)

第6条 大学間ネットワークは、第2条の目的を達成するために次の活動を行う。

- 一 ユネスコスクール等及び加盟大学等が集い、情報交換ができる場の提供
- 二 加盟大学等間又はユネスコスクール等間の連携協力推進に関する活動
- 三 その他、ユネスコスクールの ESD を中心とする活動を支援するために必要な活動

(大学間ネットワーク連絡会議)

第7条 大学間ネットワークは、原則として年2回以上、大学間ネットワーク連絡会議を開催し、大学間ネットワークの運営に関する事項についての審議及び情報共有等を行う。

(入 会)

第8条 大学間ネットワークに加盟しようとする大学等高等教育機関は、担当者を定め、別記様式1により事務局に申請するものとする。

2 事務局は、前項の申請があった場合は、原則として大学間ネットワーク連絡会議に諮るものとする。

(退 会)

第9条 加盟大学等は、任意に退会することができる。

2 退会しようとする場合は、別記様式2により事務局に申し出るものとする。

(協力員)

第10条 大学間ネットワークに、大学間ネットワークの目的を理解し、大学間ネットワーク事業をサポートする協力員を置くことができる。

2 協力員候補者は、別記様式3により事務局に申請するものとする。

3 事務局は、前項の申請があった場合は、原則として大学間ネットワーク連絡会議に諮るものとする。

(運営費等)

第11条 大学間ネットワークへの加盟に際し、会費、運営費等の負担は求めないこととする。

2 大学間ネットワークとして行う事業において、経費の負担が生ずる場合は、その都度協議する。

(規約の変更)

第12条 この規約を変更しようとするときは、大学間ネットワーク連絡会議において出席者の3分の2以上による議決を要する。

(解 散)

第13条 大学間ネットワークは、大学間ネットワーク連絡会議において出席者の3分の2以上による議決により解散する。

(協 議)

第14条 この規約に定めのない事項は、大学間ネットワーク連絡会議において協議するものとする。

附 則

1 この規約は、平成21年9月5日から施行する。

2 大学間ネットワークの設立当初の事務局は、設立会議総会の議決によるものとし、その任期は、第4条第2項の定めにかかわらず、平成23年3月31日までとする。

附 則

1 この規約は、平成27年7月11日から施行する。

2 この規約の施行後、最初に運営委員会に選出される4機関のうち、半数の機関の任期は、第4条第2項第二号の規定にかかわらず、平成28年3月31日までとし、残りの半数の機関の任期は、平成29年3月31日までとする。

附 則

この規約は、平成27年12月6日から施行する。

平成 31(2019)年度 ASPUnivNet 事務局

 **ACCUCO** 公益財団法人 ユネスコ・アジア文化センター

令和 2 年 3 月 発行

Tel : 03-5577-2852 Fax : 03-5577-2854 E-mail : webmaster@accu.or.jp

ユネスコスクール公式ウェブサイト : <http://www.unesco-school.mext.go.jp>

ASPUnivNet公式ウェブサイト : <http://www.unesco-school.mext.go.jp/ASPUnivNet/>
